



【巻頭特集】宇流富志禰神社

# 「お春日さん」の名で 親しまれてきた古社

旧初瀬街道沿いに栄えた名張市中町。その入り口に立つ大鳥居をくぐり、東に向かうと二の鳥居と社号標があり、さらに歩を進める。緩やかな上り勾配の参道左手には、奉納された灯籠が立ち並ぶ。前方に見えてくるのが名張のまちの氏神、宇流富志禰神社だ。

## information

### 宇流富志禰神社

TEL 0595-63-0486 (社務所)  
0595-64-0659 (自宅)  
<http://urufushine.jp>

## 主祭神「宇奈根命」の名は 名張川のうねりが由来

宇流富志禰神社の創祀時期は不詳である。宮司の中森孝榮さんによれば、天正9（1581）年の兵火により社殿、宝物、古文書が焼失し、記録類が残っていないという。史料上の初見としては、『三代実録』貞観3（861）年4月10日条に「宇奈根神従五位下」とある。「宇奈根神」とは、同社の主祭神「宇奈根命」を指す。さらに貞観15（873）年9月27日条には「宇奈根神従五位上」と見え、これら神階を授けられた記述から、9世紀には神社が存在していたことがうかがえる。

「宇奈根命は水、穀物の神です。元々は当社の南を流れる名張川に面した大岩（弁天岩）の上の祠に祀られていました。その場所が川のうねりの側にあつて、「うねる」が「うなね（宇奈根）」になったと言われています。神社の名も「潤うふし水」が語源と伝えられています」と、あまり馴染みのない神様の名や社号の由来を中森宮司が教えてくれた。

古くは「宇奈根神社」と称していたらしい。その後、名張郡内に春日明神信仰が広がると、同社でも春日四神が祀られる。境内の手水鉢に



宇流富志禰神社17代宮司  
中森孝榮さん

「宇奈根 天和二戌年（1682）春日大明神伊賀國名張郡仲夏吉祥日」と刻まれているように、近世には「春日大明神」や「春日社」と通称されていた。地元では今でも「お春日さん」と呼ばれている。

## 天照大神を奉斎した 元伊勢伝承地のひとつ

記紀で垂仁天皇の第4皇女とされる倭姫命が、天照大神の神体を奉じて各地を巡幸し、伊勢に鎮座するまでの伝承を記した『倭姫命世記』に、「六十四年丁亥 遷幸 伊賀國隱市守宮 二年奉斎」とある。倭姫命が2年間留まったという「隠市守宮」の比定地として蛭子神社、名居神社などとともに、宇流富志禰神社も挙げられている。

「当社の宮司は代々中森家が務めてきました。あくまでも言い伝えですが、倭姫命に付き従った巫女のひとり、中森家の祖先とされています」。また、延長5（927）年成立の『延喜式』の神名帳に記された「伊賀国廿五座 名張郡二座」の「宇流富志禰神社（宇流富志禰神社）」と書かれた写本もあり、「に比定されており、10世紀には官社に列するほどの有力神社になっていたようだ。

## 藤堂家より寄贈された 能面45面を所蔵する

寛永13（1636）年、名張に移封された藤堂高吉はまちを整備し、名張発展の礎を築いた。宇流富志禰神社は、高吉を祖とする名張藤堂家から神領を寄進されるなど、尊崇を受

けていた。秋の例大祭（名張秋祭り）も高吉に縁があるそうで、年に1度だけ町民が袴を着用して練り歩くことを、高吉が許したのが始まりとされる。

社務所内に展示している45面の能面（県文化財）も、名張藤堂家からの寄贈だ。

「寄進状などは残っていませんが、明治の廃藩置県で藤堂家が東京へ移る際に、当社へ寄贈されたと聞いています。祖父（先代宮司）の時代には、これらの能面をお祭りですべて使っていたそうです。ただ、お酒が入って乱暴に扱われ破損したことがあり、以後は門外不出にしています」

名張は観阿弥が初めて座（能楽を講演する集団）を建てた地で、古くから能楽が盛んに演じられてきた。そんな土地柄もあって、多くの人に貴重な能面を見てもらいたいと、展示室をつくり、一般公開を始めた。拝観には事前の予約が必要だが、中森宮司自ら面の説明をしてくれる。

## 地域の人たちが集まる 開かれた神社を目指す

宇流富志禰神社の氏子は、4つの町がそれぞれ組織する「講」から成る。平尾、南、北出、町の4講で、中森宮司によると「春日講」として生まれたものだという。

「当社では20年に1度、式年造営を執り行っています。先の2012年の造営では、本殿の屋根のふき替えな



1

神社は皆様が集い、親しまれる場でなくてはならない



1. 名張藤堂家より譲り受けた能面のひとつ「朝倉尉」は、観世流や宝生流で用いられる庶民の老人役の面。越前和泉棟の作で、和泉棟の面は全国に3面しか確認されていないという
2. 藤堂家の所蔵であった能面45面（三重県指定文化財）。室町中期、桃山、江戸中期、後期、年代不詳と制作年代は混在している。中には江戸時代末期、名張に滞在した生人形師、安本亀八の作「橋姫」の面もある
3. 二の鳥居をくぐった先に延びる参道。奉納灯籠をよく見ると、春日大社の神使である鹿が浮き彫りされている
4. 社務所前に置かれた鹿の像。武蔵稲荷（たけみかづちのみこと）が鹿島神宮から奈良の春日大社へ遷座する際、当地に留まったという伝承がある。戦前は本物の鹿を飼っていたそうだ
5. 当初、名張藤堂家3代長守がヒノキの大鳥居を寄進。しかし、宝永7（1710）年の大火で焼けてしまう。名張藤堂家や住民からの浄財で、安永7（1778）年に再建されたのが、現在の一の鳥居（石造）である
6. 秋季例大祭の宵宮には、松明を先頭に4つの町の講員が袴姿で提灯行列を行い、獅子舞が奉納される。本祭では町内に多くの神輿が練り出し、例年大勢の人で賑わう
7. 涼やかな音が幸福を呼ぶ「水琴桜鈴まもり」。他にも、千佳さん自らがデザインして作った縁結びのお守りなど、数種を用意
8. 旧鎮座地と伝わる弁天岩。毎年6月16日には、この岩の前で「岩祭」という神事が営まれる

